



宮私幼 だより vol.142

認定こども園 みどりの森

巻頭言

秋雨前線が居座り、運動会の練習ができないと悩んでいる先生方、もう少しの辛抱です。秋晴れの下、運動会ができることを信じて頑張りましょう。

さて、来年度の園児募集が始まります。県内の平成 26 年度と今年の園児数を比較しますと 300 名ほど減少しております。全国的にも減少傾向にあり、深刻な問題です。認定こども園に移行したとしても全体の園児数が変わるわけではありませんので、ここはじっくり、少人数でも運営できる方策を考えることが肝要かと思われます。本連合会としても各地区別設置者・園長会でのご意見を踏まえ、補助金の算定方法や労務管理、実習指導、事務の簡素化等提言してまいりたいと考えております。

全日私幼連としても少子化対策の一環として、『幼児教育振興法』の制定を国会に働きかけております。教員の質の向上、教育内容の充実、公的補助金の一本化等が盛り込まれる予定になっております。この法律が早急に制定されるよう、保護者の署名運動を各幼稚園にお願いすることになりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

この秋は、山形県で東北地区教員研修大会、岩手県で全国設置者・園長研修大会が開催されます。人手不足で研修に派遣できないといった声も聞かれますが、一人でも多くの先生方の参加をお願い申し上げます。



宮私幼理事長 村山 十五



Close・up 理事会

平成27年度宮私幼理事会の概要（4月～9月）

【平成27年度第1回理事会】

日 時 5月18日(月)午後2時～

場 所 宮私幼会議室

議 事

- (1) 平成27年度第1回定時総会の議案書について
 - 第1号議案 平成26年度事業報告について
 - 第2号議案 平成26年度一般会計・退職手当資金給付事業特別会計・受託事業決算報告並びに監査報告について
 - 第3号議案 役員の補充について
 - 第4号議案 入会金について
 - 第5号議案 退職手当資金給付事業運営規則の一部改正について
- 報告事項①新会員の紹介について
 - ②東日本大震災義援金の状況について
 - ③その他
- (2) 第1回定時総会の議長、議事録署名人及び司会者について
- (3) 正会員入会申込及び退職手当給付事業への加入申込の承認について
- (4) 4月より、「子ども・子育て支援新制度」施行による会費及び会員数の把握について
- (5) 東盛幼稚園の火災見舞金及び義援金について

【平成27年度第2回理事会】

日 時 6月25日(木)午後2時～

場 所 宮私幼会議室

議 事

- (1) 教育振興大会の役割分担について
- (2) 養成校との懇談会について
- (3) 免許状更新講習の分担について
- (4) 地区別設置者園長会議について
- そ の 他 平成27年度地区運営費・地区研修費・実技講習会費の補助及び「実技講習会実施状況報告書」の提出について

【平成27年度第3回理事会】

日 時 8月26日(水)午後2時～

場 所 宮私幼会議室

議 事

- (1) 幼児教育振興法の署名活動及び協力金について
- (2) 各委員会4月～8月の事業活動状況報告について
- (3) 地区別設置者・園長会議の反省について
- (4) 研究委員会からの提案事項について
- 報告事項 東盛幼稚園火災義援金について

事務局だより

○関係機関団体

- 5/1 子ども・子育て会議（宮城県行政庁舎）
- 5/8 幼稚園等新規採用教員研修会（県総合教育センター）
- 5/15 仙私幼総会（旭ヶ丘市民センター）
- 5/18 仙私幼PTA総会（仙台市民会館）
- 6/1 宮私幼PTA連合会総会（仙台市民会館）
- 6/11 子ども・子育て支援条例骨子案に関する意見交換会（宮城県行政庁舎）
- 6/26 PTA連合会広報委員会
- 7/1 県新任研、10年研（県総合教育センター）
- 7/16 私学審議会
- 7/22 県新任研（県総合教育センター）
- 7/27・28 子ども・子育て支援新制度説明会（仙台合同庁舎）
- 8/3 県新任研、10年研（県総合教育センター）
- 8/4 幼稚園教育課程宮城県研究協議会（宮城県行政庁舎）
- 8/7 県新任研（県総合教育センター）
- 8/19 県新任研、10年研（県総合教育センター）

○全日私幼連

- 4/24 常任理事会（東京）
- 5/8 理事会（東京）
- 5/20 定時総会（東京）
- 6/5 臨時理事会（東京）
- 6/19 第23回東北地区私立幼稚園設置者・園長研修会〈岩手大会〉公開保育コーディネーター養成講座（東京）
- 6/20 第1回全日私幼連東北地区会（岩手県）
- 6/29 認定こども園「教育・保育 質の向上」全国研修会（東京）
- 7/13 PTA連合会全国大会（東京）
- 7/14 臨時理事会（東京）
- 8/1 東北地区団体長会議（弘前市）
- 8/1～2 免許状更新講習〈第1回・必修〉（仙台市戦災復興記念館）
- 8/18～19 幼児教育実践学会（福島県）
- 8/23 免許状更新講習〈第2回・選択〉（仙台市戦災復興記念館）
- 8/30 免許状更新講習〈第3回・選択〉（仙台市戦災復興記念館）

○宮私幼のあゆみ

- 4/6 広報委員会
- 4/22 研究委員会
- 4/24 総務・給付委員会
- 5/12 常任理事会、総務・給付委員会合同会議
- 5/15 監査会
- 5/18 理事会
- 5/21 研究委員会、教育研究発表大会発表園振り返りの意見交換会
- 5/29 設置者園長研修会・定時総会（東京エレクトロンホール宮城）
- 6/9 常任理事会
- 6/10 総務・給付委員会
- 6/11 研究委員会
- 6/17 総務・給付委員会
- 6/18 経営委員会
- 6/19 広報委員会
- 6/24 研究委員会、地区研修担当者連絡会、研究発表大会発表園打合せ会
- 6/25 理事会
- 6/29 教育振興大会・PTA研修大会（東京エレクトロンホール宮城）
- 7/1 総務・給付委員会
- 7/2 研究委員会
- 7/8 養成校との懇談会（仙台ガーデンパレス）
- 7/13 広報委員会
- 7/24 ファシリテート研修会（仙台市戦災復興記念館）
- 7/30 フォローアップ研修会（東京エレクトロンホール宮城）
- 中堅教員研修会（仙台市戦災復興記念館）
- 7/31～8/1 新任教員研修会（茂庭荘）
- 8/4 10年経験教員研修会（仙台市戦災復興記念館）
- 仙台地区設置者・園長会議（旭ヶ丘市民センター）
- 未満児保育研修会（仙台市戦災復興記念館）
- 大崎地区設置者・園長会議（大崎市：芙蓉閣）
- 8/10 広報委員会
- 8/19 石巻地区設置者・園長会議（石巻市：ひばり幼稚園）
- 8/20 気仙沼・登米地区設置者・園長会議（気仙沼市：葦の芽星谷幼稚園）
- 8/21 仙南地区設置者・園長会議（柴田町：熊野幼稚園）
- 8/24 名取・岩沼地区設置者・園長会議（岩沼市：岩沼南こぼと幼稚園）
- 8/25 塩釜地区設置者・園長会議（塩釜市：割烹 中長）
- 8/26 理事会、総務・給付委員会
- 8/28 研究委員会、研究発表大会発表園打合せ会

○慶 弔

- 5/2 畑中 てる子 氏（九条幼稚園 設置者）ご逝去
- 6/13 ひかり幼稚園創立50周年記念式典
- 7/8 川崎 清洲 氏（パドマ幼稚園 前理事長）ご逝去
- 7/17 中村 慰子 氏（小鳩幼稚園 前園長）ご逝去

平成27年度 第1回定時総会・研修会

日時：平成27年 5月29日 会場：東京エレクトロンホール宮城

設置者・園長研修会

今年度第1回の宮私幼設置者・園長研修会が、去る5月29日、東京エレクトロンホール宮城を会場に行われました。



始めに村山十五宮私幼理事長が挨拶をし、最近の幼稚園火災被害を受けて、危機管理の研修の中でも防火についての研修をすることにしたと述べられました。

講師として仙台市消防局予防部予防課予防係長の棟形一陽氏を迎え、「放火防止対策について」というテーマでご講演いただき、スライドやDVDなどを通してわかりやすく学ぶことができました。

最近機器の性能の向上で火災が減っているものの、放火による火災は人的要素が大きいため件数が増加しているということで、整理整頓などの放火されにくい状況を作ることが重要であると、予防の大切さを教えられました。放火の発生状況としては、家庭や事務所などのごみ置き場が一番多く、次いで枯草等、灯油ポリ缶、タイヤ、自動販売機、古新聞古雑誌などの順で発生しています。こうした状況から、対策としては、人の目のつくところに燃えやすいものを置かない、関係者以外の出入りをさせない、防火製品の使用、照明設備の設置、巡回や監視装置の設置などが考えられます。



最近話題になった自動販売機の放火は、つり銭が落ちてくる(実際には落ちてこない)といううわさが広まってきたことだそうです。幼稚園では防災防火対象物を使用することが義務づけられていますが、ラベルがついている必要があり、ついていなければ購入業者につけてもらうようにとのことでした。放火の特徴は、深夜短時間で衝動的に行われ、人目につかない場所や燃えやすいものが散らかっている場所で行われることが多く、新築中の建物などで起こることもあるそうです。事業所や住民が一体となって、自ら放火されやすい場所や状況等を把握して、放火されない環境作りを通して、放火防止対策を進めていく必要があります。



研修を終えました。

チェックシートは以下から取り出せます。

<http://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/bohan/shobo/oshirase/kasaiyobo/houkakasai.files/tyekkusitotiiki.pdf>

第1回総会

今年度の宮私幼総会が、5月29日、午前中に行われた設置者・園長研修会に引き続き昼食をはさんで行われました。開会后、村山十五理事長は、震災支援で以前お世話になった中村今日私学文書課課長に感謝の意を表し、昨年度を振り返り、新年度の展望について挨拶をされました。



引き続き来賓としてご出席いただいた中村課長は挨拶で、震災当時を懐古され、「子どもたちの明るい笑顔」から復興が進んでいると感じ、新園舎再建に向けて新たな歩みが始まっている旨話されました。また同氏は新制度について言及され、不透明な部分があり心配をおかけしたが、とりあえず円滑に移行できました。今後、私学助成と併存して進めていきたいと述べられました。

宮私幼PTA会長の渥美巖氏は、運営費補助は伸びているものの全国ランキングからすれば低い方なので、震災があっても思うに任せない財政状況は理解できるが、宮城県全体の県勢に鑑みてせめて15位くらいになるべきであるとの見解を述べられました。また同氏は、震災後私学文書課の迅速な対応に感謝しつつ、被害が広域多種であるので5カ年の復興集中期間では十分でなく、今後復興の加速と地元支援が課題となると指摘されました。

引き続き、新たに保育園として加入したろりぽっふ泉中央南園とぼだい保育園が紹介されました。

議事に入る前に、議長として 純心幼稚園の尾花耿二氏、ふたばハイジ幼稚園の菅原美穂子氏が指名され、議事録署名人として築館聖マリア幼稚園の仲鉢玲子氏、



泉の杜幼稚園の菊池正隆氏が選出されました。

議事は議案書に基づいて行われ、平成26年度事業報告、平成26年度一般会計・退職手当資金給付事業特別会計・受託事業決算報告並びに監査報告が一括審議され、異議なく承認可決されました。理事の欠員補充の議案では尾花耿二氏が選任されました。更に定款に基づく入会金及び退職手当資金給付事業運営規則の一部改正が承認され、佐藤宏郎副理事長の閉会の辞をもって議事の一切を終了しました。

(早坂文彦)

平成27年度宮城県私立幼稚園教育振興大会 第44回宮城県私立幼稚園PTA研修大会

日時 平成27年 6 月29日(月) 10:30～12:30 会場 東京エレクトロンホール宮城

当日は、約910名の方々の参加があり、大変に盛り上がりました。例年ですと1部が振興大会、2部が研修大会ですが、宮城県議会が開会中でもあり、1部が研修大会、2部が振興大会となりました。

第1部 研修大会

講演「一・十・百・千といたら？…日常が大事」

講師 関口 怜子 先生

(ハート&アート空間“ビーアイ”代表)

初めに、「私は自分のことをゾウカバと呼んでいます。象のような耳を持ち、子どもの声にならない小さいつぶやきを聴き取り、カバのように大きな口を開けてガハハと笑いたい。」と自己紹介をされました。

ビーアイでやっていることはお金がかかりません。新聞紙3枚とガムテープでボールを作り遊びま



す。既成の物に頼らず、自分で作ること、イメージして描くことは楽しいのです。

幼児教育は、家庭教育が基本で、日々の暮らし

方を子どもに見せて、子どもはよく見て学んでいます。お正月に年長兄である孫が遊びに来た時に、墨で「あなたがそばにただいるだけで、その場の空気が明るくなる。」と書いたのを見て、とても驚きました。どうしてこの言葉を書いたのか聞いてみると、同居している祖父母の家に貼ってある“相田みつをの額”に書いてある墨字だということがわかりました。毎日みている額の墨字がいつの間にか頭に入って、墨を見たらそれを思いだして書いたのです。

一・十・百・千といたら？……お金も大事ですが、もっと大切なものがあるのだということに気づいてください。

一といたら……生命。子どもは毎日新しい一日を生きています。新しい何かと出会っています。新しい生命を生



きています。自分なりに意味づけをし、毎日努力をしてやっていくことが＜生きる＞ということです。子どもと一緒に笑ったり怒ったり泣いたりする時間はずっとは続きません。楽しい思い出を作り、お互いに生きあいましょう。

十といたら……“ビーアイ10条”は次のとおり。まず第1条：自分になるために生まれてきた。第2条：いいところは皆違う。第3条：一緒にいるだけで嬉しい。そういう関係が大切。第4条：違う意見は大事である。同じ意見の人を重用しがちだが、自分では気づけない。違う意見を言うのは勇気がいることだから、ありがたく受け止める。第5条：自分がどうしたいか訊いてみる。子育てとは、子育てと親育ちが合わさって成立する。第6条：一枚の木の葉、流れる雲も先生。子育てはたねもしかけもある。

「夕焼けがきれいだね。」「花が咲いたね。」等、子どもの傍でつぶやく。子どもに優しく美しくふりかけることが豊かな情操に繋がる。第7条：町は学校、地球は遊び場。親だけが子育てしているのではない。第8条：Look Good！Feel Good！第9条：生かされていることに感謝する。第10条：失敗は成功のだしの素。口だけ立派なママにならない。子どもにとって最初に入ったことが重要です。

百といたら……動く。言葉を交ぜながら、歌いながら動く。会場の参加者全員で＜小さい種から…＞を振り交えて歌いました。急に大きな畑は耕せません。

千といたら……愛が大事。一枚の折り紙は折って使わなければ、いつまでも折り紙のまま。折って使って誰かに伝え、誰かと仲良くなることは、大きな価値を生みます。ご機嫌な家族になりましょう。たったひとつの生命を百にも千にも増やし、近くの子供達をご機嫌な子どもに育てましょう。……会場は終始元気パワーに包まれました。



(小川せつ子)

第2部 振興大会

大会スローガン「幼児教育の再構築に向けて ～子育ては、親と地域と幼稚園～」

司会は吉岡弘宗先生の軽快な進行のもと、鎌田文恵副理事長の開会の言葉に始まりました。横澤行夫宮私幼PTA副会長の指揮で「愛の花輪」斉唱。村



山十五宮私幼理事長の挨拶がありました。

「新しい子ども・子育て支援制度で、すべての幼稚園にプラス

になるように関係機関に働きかけていくのでご協力をお願いします。文科省は少子化対策として幼児教育の無償化に取り組み、平成26年度から第3子



全額無料、第2子半額が実現しました。この制度は、認定こども園にも適用されるので無償化に向けて一緒に行動していきたい。私立

幼稚園と認定こども園は何よりも子どもの幸せを願って頑張っています。」

渥美巖宮私幼PTA会長の挨拶がありました。

「6月1日に開催された宮私幼PTA総会で3つの目標をたてているが、特に保護者の負担軽減につ



いては、公立と私立で税金投入に3倍から4倍の格差があるので、それを改善するために、宮私幼と共に毎年村井知事や安藤議長に要望を行

っています。全国で下位にある私立幼稚園への補助が宮城県の財政力、人口規模に相応しい順位にして欲しいとお願いしております。県内では約8割以上が私立幼稚園に通園しており、未来の宮城県を担う子どもたちのためにしっかりサポートしていただきたい。」

村井嘉浩宮城県知事の代理三浦副知事のご祝辞を代読されました。「大震災から4年3ヶ月経ちますが、明るく元気な笑顔あふれる子どもたちの姿を見ると、ふるさと宮城が少しずつ着実に復興に向けての歩みを進めていることが感じられます。県では幼児期を生涯にわたる人間形成の土台作りの時期ととらえ、本年3月には本県の幼児教育を推進していくため、第2期学ぶ土台づくりの推進計画を作成

しました。さて、本年4月から子ども子育て支援新制度がスタートし、本県の私立幼稚園でも新制度の幼保連携型のこども園に10園、幼稚園型認定こども園に5園、施設型給付の幼稚園に9園移行しました。今後、新制度の主体である市町村とも連携しながら、移行を希望する私立幼稚園への支援と共に幼児教育の充実のために取り組んで参ります。」

安藤俊威宮城県議会議長よりご祝辞をいただきました。「東日本大震災から時間の経過に伴い子どもたちを取り巻く環境も多様化し、長期的視点で心のケアを継続していくことが求められています。宮



城県議会では昨年の9月定例会で教育条件の維持向上と経済負担の軽減などを求めた私学助成の充実強化の意見書を採択し、国に提出したところ

です。今後も貴連合会及びPTA連合会の要望を踏まえつつ、子どもたちが充実した環境で健やかに成長していくように力を尽くして参ります。」

続いて佐々木幸士宮私幼PTA副会長により来賓紹介、庄司昭博宮私幼理事と鈴木真奈美宮私幼PTA副会長によって大会宣言(案)が読み上げられ、三浦副知事と安藤議長に花束の贈呈が行われました。中島源陽宮私幼PTA副会長により閉会の挨拶があり、本大会が終了しました。



大会宣言

平成27年4月、子ども・子育て支援法の施行に伴い、私立幼稚園・認定こども園を会員とする私たち、宮城県私立幼稚園連合会と同PTA連合会は、東日本大震災により被災した方々の一日も早い復興・再生を願いつつ、子どもたちのすこやかな成長・発達・安全のため、親と地域と幼稚園の絆を高め、それぞれの役割を自覚し、また研修に励み、そのつとめを果たします。そのためには、より安心して子育てができる環境が必要であり、次のことを宣言します。

1. 私たち会員は、親と地域と連携しながら、幼児一人ひとりの自立への歩みを進め、適切な環境での体験と、人とのかかわりの中で「生きる力」の基礎を育みます。
また、親の「学び」と「子育て」を支える環境作りに努めます。
2. より豊かで充実した幼児教育振興のためには、教育に専心できる経営上の安定が必要です。そのためには、私立幼稚園への公的助成、特に幼児の就園に伴う保護者の経済的負担を軽減するために、県費かさ上げによる運営費助成増額、並びに市町村の就園奨励費の拡充の為に努力します。
3. 私立幼稚園が行っている子育て支援、特に預かり保育事業に対する補助金の増額を求めます。

これら、幼児教育に必要な予算が的確に措置されることを関係機関に強く求めることを宣言します。

平成27年6月29日

宮城県私立幼稚園教育振興大会

新園長紹介

エコールノワール幼稚園

新園長 佐々木 拓 真

この4月より、父の後を継いでエコールノワール幼稚園園長に就任いたしました。これまでも、前園長の代理として宮私幼の総会等に出席しておりましたが、これを機に、より一層のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。前園長も完全に引退というわけではなく、幼稚園設置者として経営や、造形活動の指導を行っております。

エコールノワール幼稚園は、画家である前園長が始めた画塾の幼児科が前身です。造形を柱に据えた幼児教育を、50年以上にわたり改良を加えながら、コツコツと積み上げてまいりました。この造形教育は何物にも代えがたいエコールノワールの財産であると考えており、しっかりと受け継いで育てていきたいと思っています。

また、エコールノワール幼稚園は、この春から新制度の幼稚園に移行いたしました。個人立の場合は、新制度開始時のみの特例ということで、移行を決断したのですが、加算制度なども利用して、職員の待遇改善や、園児の受け入れ態勢の充実などを行っていきたくて考えております。全く新しい制度で、いろいろと不備な点も見受けられますが、より良い保育に向けてのチャンスであると考えて、前向きに進んでいきたいと考えております。



利府第二おおぞら幼稚園

新園長 橋 本 綱 夫

利府第二おおぞら幼稚園園長に着任した橋本綱夫です。学校法人の理事長職と兼務であるため、園に常駐というわけにいかず、本部から園までは40分程度かかるので一寸行く、というわけにもいかないのですが、時間を確保して園に赴き園児の様子を見、園児と一緒に過ごす時間を作るようにしています。

園において取り組むべきことは多々ありますが、私は中でも環境構成を重視して考えています。子どもたちの自発的な遊びを促すように、好奇心や創造性を発揮できるように、様々な遊びを子どもたちが創り出せるように、環境構成ができていくか。保育者の何気ない振舞いから園児が何を学びとるか、等々。環境構成は、保育者の仕事の中でも高度な専門性が求められ、かつ、子どもの成長に直結するところではないかと思っています。保育者には様々な面で専門性が求められるものだと感じます。

子ども子育て支援新制度においては、保育の質の向上がうたわれ、公定価格の単価が見直されましたが、保育の質向上とは何でしょう。答えは、保育者の専門知識と実践が組み合わされた専門性の中にあるのではないかと思います。教職員みんなで悩み、考え、実践していきたいと考えています。



地区別設置者・園長会議報告

経営委員長

末 屋 保 広

毎夏恒例の地区別設置者・園長会議が今年も盛会で行われました。今回のポイントは主に2つあったようです。

一点は、「職員不足」の問題です。園側の立場で言えば、教育実習には来ても、採用試験は受けに来ない…等の不満はあると思います。しかし、将来的に保育士の資格だけで十分と、教育実習にも来なくなったらそれこそ大変です。経営者とし

て、待遇の改善や魅力ある職場環境を作るのは待ったなしの課題と言えるでしょう。もう一点は新システム移行園の検証でした。手続きやチェックの厳しさはありながら、補助金収入の増額で経営面ではプラスだ～との意見が少なからずありました。今後、移る園も残る園もあらゆる面からしっかりと検討して答えを出すべきだと強く感じた次第です。

「平成27年度養成校との懇談会」報告

総務・給付委員長 吉岡 弘 宗

去る7月8日、県内養成校、近県養成校合わせて15校に呼び掛けをして「養成校との懇談会」を開催しました。

大都市圏の待機児童対策による保育所新設や、新制度施行により幼稚園だけではなく、保育所においても、これまでにないほど人材確保の厳しさを実感しています。そのような最中、各養成校の現況として、近年、幼稚園求人も早くなりましたが、園児募集の状況次第で採用試験実施という流れが多く、逆に保育所求人は年間を通じた採用が行われるなど、



圧倒的に差が大きいとの事でした。学生の意識としては、実習の経験から、特に指導案など書き物が多く、1人担任となる幼稚園、勤務シフトが決まっていた複数担任である保育所など、それぞれのイメージや採用試験の際のピアノを中心とした実技の敬遠などの理由が挙がりました。

しかしながら、ほとんどの学生は地元就職希望であり、懸念していた首都圏への流失は各養成校で1割程度であり、養成校としても引き留めているというのは共通していました。

職場として魅力ある幼稚園として、人間関係、労務や待遇面の改善はもちろんのこと、学生との貴重な接点となる教育実習の運び方などについても各園の違いが大きくあり、印象の開きが大きいようなので、人材確保は吃緊の対策事項だということから、養成校との連携を含めその解消へ向けた検討が必要と感じました。



東盛幼稚園火災被害への義捐金について

お見舞いありがとうございます

4月に2度の火災により大きな被害を生じた東盛幼稚園へのお見舞いとして、宮私幼と仙私幼から各10万円、県内各幼稚園等110園からお寄せいただいた義捐金140万円を、6月10日に宮私幼村山理事長と仙私幼鎌田文恵会長が幼稚園を訪れ清野園長にお渡ししました。また、8月26日にその後いただいた義捐金4園38,000円を東盛幼稚園にお届けしました。皆様方のご協力に感謝いたします。

編集後記

「子ども子育て支援新制度」が施行されて半年、当分試行錯誤が続くでしょうが、村山理事長が、常日頃「何よりも子どもの幸せを願うことは一緒なので共に歩んでいこう」とおっしゃっている通りだと思います。そのような中、幼保連携型認定こども園「みどりの森」を訪問させていただき、都心部にあって生き生きとした子どもたちの様子に触れることが出来ました。(鎌田俊昭)



幼稚園訪問記

幼な子とともに

幼保連携型認定こども園

みどりの森

〒980-0933

仙台市青葉区柏木1丁目7-45

幼稚園園児数 118名

(未満児5名、満3歳児13名、3歳児30名、4歳児35名、5歳児35名)



※平成27年7月10日現在

みどりの森では

保育時間	1号認定の子ども：9時～14時 2号および3号認定の子ども：7時15分～18時15分
預かり保育	早朝：7時15分～9時 午後：14時～18時15分
給食	全日 自園調理
送迎	保護者による送迎



《概要》

大正13年から続いた「みどりの森幼稚園」は、給食施設の改装や地域の子育ての相談や支援のためのスペースの確保など施設を整え、本年4月から幼保連携型こども園「みどりの森」として、新しい歩みを始められました。



新しい制度への移行に関しては、上記の施設の整備に加え、認定の審査への対応などに相当のご苦労があったとの小島園長先生のお話ですが、スタートして3カ月を経て、新制度のもとでの園の運営は順調に進んでいると話しておられました。

現在、1号認定の子ども81名、2号認定の子ども32名、3号認定の子ども5名が在籍しております。

《教育の目標》

- ◇自分がいやなことは人にはしない
自分がしてほしいことは、すすんで人にしてあげる
- ◇自分自身も地球の中の自然のひとつだということを感じられる
- ◇人生における智慧を身につける



《教育の方針》



- ◇子どもたちの自由な遊びを中心とした保育
- ◇子どもたちひとり一人を大切にしたい保育
- ◇子どもたちの好奇心を大切にしたい保育

これらの目標、方針のもと、子ども達は、午前中年齢の区別なく自由遊び、12時からクラスごとの昼食、昼食後も自由遊びや絵本の読み聞かせを中心に過ごし、あそびを中心に成長ができるような様々な工夫がなされています。

木々に囲まれたみどり豊かな園庭には、子ども達が育てている花壇や菜園、冒険のツリーハウス、子ども達が作った池や川があります。各クラスの部屋は、教室と言うよりは「子ども達のあそび部屋」のような雰囲気です。その中で生き生きと遊んでいる子ども達と、環境を整えその中で遊ぶ子ども達を温かく見守る先生方の姿がとても印象的でした。

(尾花耿二・鎌田俊昭)

